

令和元年度 姉妹校等留学プログラム

●学校・団体名/研修名（派遣高校生数）

横浜清風高等学校/オーストラリアホームステイ研修旅行（2名）

●渡航先

国/都市：オーストラリア/ウーロンゴン市

●渡航期間

2019年7月31日～8月15日

●1. Kさん

今回のホームステイについて、私が感じたことは大きく分けて2つあります。

一つ目は海外で生活することの大変さです。私は以前セブ島のほうに語学学習に訪れたことがあります。そこでの生活は寮生活、ということもあり、孤独さも不便さも感じませんでした。ですが一方でオーストラリアでのホームステイは、ステイ先に一人で入ったことや、意思疎通の難しさから、孤独感であったり、要望が伝えにくいことから、場違いなのではと思うときさえありました。ですが同時に、現地の方々の温かさも感じられました。話題提起のできない私に、優しい英語で話しかけてくれたり、できるだけ無言の時間を作らないようにしてくれたりしました。わからないことがあったりした時、一つ一つ丁寧に教えてくれたのも、心の支えとなっていました。

二つ目は可能性の広がりです。人生のほとんどを日本で過ごしていた私ですが、何をやるにしても自分の限界を考えて少し低いレベルで取り組んでいたような気がします。実際、勉強面でもこれは露骨に出ていて、成長がみられず、諦めてしまったことがありました。オーストラリアに行ったとき、自分の英語力を考えて曖昧にしてしまった場面があり、そんな自分の決めつけから、小さなトラブルになったこともありました。これをきっかけに曖昧にしないことを決め、聞き直すことを徹底しました。すると相手も優しく丁寧に教えてくれました。この体験から私は、いくつかの道を試すことを知り、今後の生活に生かすことを決めました。

こういった学び以外にも、笑いあえた経験もたくさんしました。中でもホストブラザーとの間で話題となった、「電話番号は何ですかモンスター」が最も面白かったです。ブラザーは日本語を勉強していましたが、そんな中でも一番好きな日本語が「電話番号は何ですか」らしく、彼はそれを聞きまわるモンスターを自作し、大爆笑していました。ホストマザーと私はそんな彼を、変人だ、と冗談交じりで言っていたことが一番の思い出です。他にも休日に遊園地に行ったり、デパートで買い物をしたりしたのは、いい思い出になったと思います。私は、ここに書ききれないような大きく、忘れられない経験をたくさんしました。こういった経験ができたのは、学校の先生方や、行くことを許可してくれた家族、また横浜市の海外交流に対する意識の高さや、

それに参加しようとする横浜市生徒への支援があってこそのものかと思います。期待を裏切らないよう、今後も積極的にこういったイベントへの参加をしていきます。

● 1. Mさん

私がこのオーストラリアホームステイを通じて学んだことの一つは食習慣である。日本では、あまり食ということを意識していなかったがホームステイをしてみて意識することが多くなった。オーストラリアでは味の濃いものが多く、日本ではあまり思わない野菜が食べたいなと思うことが多くなった。これは、きっと日本の中ではあまり思わないことなのでとても良い体験だったしこれからも継続していきたいなと思った。

二つ目は入浴の時間だ。オーストラリアの冬はあまり雨が降らないので水が他より大切なので入浴の時間が日本では決まっていらないのに対して 10 分から 15 分といわれて、日本では入浴の時間をあまり気にせず入りたいただけ入っていたので国によっては全然入浴の時間が違うなと思い日本人でよかったと思った。

三つ目は現地の学校と日本の学校の違いだ。私はこの違いにとてもびっくりした。なぜびっくりしたかという、はじめにお弁当がお菓子とフルーツとすこしのパンでこんなじゃ足りないと思った。でも現地の学生はこれを何回かに分けて食べていて、これがオーストラリアの普通なのだと思った。日本では一回の昼休みにお弁当を食べるので、日本とは違うのだなと思って少し慣れるのに時間がかかった。その次にびっくりしたことはクラスというものがなかったことだ。オーストラリアでは学校の先生が各自部屋を持っていて、そこにその授業になったら生徒たちが行くので、生徒たちは授業がないときは外のベンチや図書館で待っていることが多く、日本ではこんなこと体験したことがないのでとてもよかったなと思った。ほかにも学校の校庭で遊ぶときは日差しが強いため帽子をかぶらないと遊ぶことができなったり、休み時間にはパソコンを貸し出してそれで生徒たちがゲームをしていたりと、現地の学校では日本との違いをより強く感じる事ができた。

四つ目は寝る時間の違いだ。私は、日本ではいつも十二時から一時の間で寝ていたが、オーストラリア人の子供は十時に寝てしまい、お父さんやお母さんも十一時には寝てしまうので、最初の方は合わせる事ができず少し違和感があったけど、それにもだんだん慣れてきて最終的には十一時までには寝ることができるようになっており、海外に行くとだんだん慣れていくものだなと思った。ここでもう一つ違和感に思ったことは、なんで夜の十時から次の日の夜ご飯の準備をするのかだ。日本なら子供が寝ていたらあまり音を立てないようにするが、オーストラリアの人はミキサーも使っていた。この行動もあまり日本では見かけることはないなと思いますごいと思った。

最後に、私はこのオーストラリアのホームステイを通じて様々な経験だったり人々と出会うことができた。これは私にとってかけがえのない思い出であり自分の人生のプラスになると思う。だからこそ私は、これで得た経験や友人を忘れないた

めに連絡を取り合ったりしてこのつながりを継続していき、さらにここからより広いつながりへと変化させていきたいと心から思った。